



大会レポート

第68回都市計画全国大会

～大分県大分市～

茨城県土木部都市局公園街路課 主任 栗山 賢一

平成28年10月27日から28日まで、第68回都市計画全国大会が大分県大分市で開催されました。

全国から都市計画やまちづくり行政に携わる関係者約800名が集まり、事例発表や意見交換、現地調査が行われました。

■大会1日目

○主報告

「都市行政をめぐる最近の動きについて」

昨今の都市を取り巻く状況や課題に対応するため、生活サービス機能と居住を集約・誘導し人口を集積する「コンパクトシティ化」と、まちづくりと連携した公共交通ネットワークを再構築する「ネットワーク化」が必要となっており、国ではコンパクトシティ支援形成チームを設置し、省庁横断的な支援をしているとのことでした。

また、国土交通省では本年を「生産性革命元年」とし、省を挙げて生産性革命に取り組んでいくこととしており、「社会のベース」「産業別」「未来型」の3つの切り口で生産性を高めるプロジェクトを推進しているとの報告がありました。



○部会（第3部会）

「交通結節点を中心とした都市再生について」

テーマごとに3つの部会に分かれて報告が行われました。このうち、第3部会では、交通結節点を中心とした都市再生について、大分県大分市、兵庫県姫路市、富山県富山市の3市からそれぞれ事例報告がありました。

<報告1> 「大分駅周辺のまちづくりと交通結節」

大分県大分市では、大分駅の駅南地区と駅北地区が鉄道により分断され様々な弊害が生じていたため、大分駅付近連続立体交差事業、大分駅南土地地区画整理事業、庄

の原佐野線等関連街路事業を三位一体とした「大分駅周辺総合整備事業」を推進し、南北市街地の一体化やアクセス性の向上など、大分駅を中心に良好な都心居住環境が整備されたとのことでした。

また、交通結節機能の強化に向けて、バス待機場の整備やタクシーショットガンシステムの導入等により、周辺道路の交通の円滑化が図られたとの報告もありました。



大分駅南口駅前広場

<報告2> 「姫路駅周辺整備事業について」

JR姫路駅周辺では、高度経済成長期を経て、駅を中心に市街地が拡大する中、鉄道による市街地の分断によって交通渋滞が発生し、市街地発展の大きな妨げになっていたことから、平成元年から「姫路駅周辺整備事業」を進め、「立体都市計画制度の活用」「鉄道高架下スペースの有効活用」「トランジットモールの導入」「官民協働の取組」などにより、都市部の再生と都市の活性化を促進しているとのことでした。

新しく整備された「姫路駅北駅前広場」では、昨年度、市民主導による230のイベントが行われ、都市の活性化を促進しているとの報告もありました。

<報告3> 「富山駅周辺のまちづくり～富山駅周辺整備事業と賑わいの創出～」

富山市では、公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりを目指し、「公共交通の活性化」「公共交通沿線地区への居住推進」「中心市街地の活性化」を3本柱として、富山駅周辺整備事業を推進し、富山らしい特徴のある施設整備や賑わいづくりの取り組みを充実させることで、公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりを進めているとのことでした。

また、交通結節機能の強化としては、各鉄道間、鉄道とバス・タクシー間等の乗換えが、高架下自由通路や

シェルターの整備により、雨や雪に濡れることなくスムーズに可能になり、利便性が向上したとの報告もありました。

○記念講演

「互いに高め合う魅力－美術館と都市－」

大分県立美術館 館長 新見 隆 氏

大分美術館は、県民が自分たちの応接間と思えるような、大分らしい美術館を目指しており、大分美術館を例に美術館と都市の関係や、世界各都市の美術作品について講演をいただきました。

■大会2日目

3班に分かれての現地研修が行われ、私は「豊後高田昭和の町・杵築城下町コース」に参加しました。

①連続立体交差事業・土地区画整理事業「大分駅」

大会1日目の第3部会で事例報告があった「大分駅周辺まちづくり」のうち、駅南地区では幅員100メートルのシンボルロードを整備しており、シンボルロードの中には緑地を設け、自転車のイベントで活用されるなど、大分の玄関口にふさわしい大規模な公共空間が確保され、賑わいが生まれておりました。



大分駅北口駅前広場（大友宗麟公像）

②都市再生整備計画事業「豊後高田昭和の町地区」

昭和30年代の懐かしさをテーマに町おこしを行っている豊後高田昭和の町地区では、空き店舗の活用や、昔ながらの趣のある外観への改修を行うとともに、各店舗では、昭和時代に使用していた家財を展示するなど、地域と一体となった都市再生整備事業が行われ、まちの賑わいが生まれていきました。



豊後高田昭和の町 商店街

③街なみ環境整備事業「杵築地区」

九州の小京都と言われる杵築市では、数多くの石段や、大原亭を代表とした昔ながらの屋敷が存在しておりました。

市では、歴史的街路整備事業や街なみ環境整備事業などにより、歴史道路や都市計画道路の整備を進めるとともに、歴史ある建造物の保存活用や、杵築城下町にふさわしい街なみ景観の再生を進めているとのことでした。



杵築市 酢屋の坂

■おわりに

今回の都市計画全国大会では、持続可能なコンパクトなまちづくりに向けた官民共同の取り組みが紹介され、住民や各事業者と連携して事業を進めることで、利用者目線の利用しやすい整備を行うなど、今後のまちづくりへの取り組みにあたり、大変貴重なお話を伺うことができました。

また、現地研修においても、歴史や文化、地域の特色を生かしたまちづくりの取り組みなど、本県におけるまちづくりに対しても参考となる大変有意義な研修となりました。



大分駅南口駅前広場



幅員100mのシンボルロード（大分いこいの道）